

活動実績報告書

平成26年4月18日

登録番号 20130746

氏名 伊藤和哉

1. 活動状況

平成24年 4月 ~ 平成26年 3月

「市町村森林整備計画の具現化に向けた、低コスト木材生産指導」

(1) 活動の概要

市町村森林整備計画の具現化に向けた活動の一つである「低コスト木材生産の推進」は、木材生産の効率化を図り、採算性を高める事により、林家への利益還元、林業事業体の安定的な経営、林業就労者の確保や処遇改善につながる重要なものである。

私が担当しているのは、その実行に向けた森林組合等に対する指導であり、作業の功程調査を行ってボトルネックを改善する指導や、効率の良い木材生産を行うために作業員自らが工夫し、低コスト意識を持つこと、モチベーションが維持向上するように指導を行っている。

森林所有者等に対しては、高性能林業機械による木材生産システムの解説や生産性を数値でPRすること、低コスト木材生産に不可欠な路網開設への理解を深めるなど、集約化施業につながる取り組みを行っている。

平成24年度からは、「低コストで耐久性のある路網作設技術の向上」について、普及指導を行っている。

(2) 当該活動を挙げた理由

搬出間伐等の木材生産施業を終えた後に、森林所有者が評価するのは、「収支」と「森林の状況」が主なものである。施業後の森林状況における、「間伐の具合」や「残存木の損傷の有無」の他、「開設した路網の良し悪し」が、評価や判断の基となり、低コスト木材生産システム施業全体の印象に、大きく影響を与える。

また、周辺の山の森林所有者も同様に、その森林の状況を興味深く見て評価されている。

つまり、木材生産における収支結果と併せて、「施業後の森林の姿」は、施業を実施した事業体や、木材生産システムの広告や看板と同じ意味合いを持っており、評価や評判につながる重要な判断材料である。

(3) 当該活動における、あなたの立場と役割

低コスト木材生産の推進を行う立場であり、施業に対する森林所有者の理解を深めることや、木材生産における生産性の向上、施業の質の向上、安全な作業を行うことで、森林所有者が森林組合等に対して安心して経営を任せられる事業体となるよう、指導を行っている。

(4) 活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

道づくりを行った事で、崩壊を招いたのでは、低コスト木材生産の推進自体の歯止めとなるだけでなく、森林所有者からの信頼を失いかねない。

森林所有者が「次もお願いしたい!」、周辺の森林所有者が「これなら自分の山もお願いしたい!」と思ってもらえる施業、そして最適な道づくりを積み重ねていく事が、森林所有者等との合意形成の源であり、持続的な森林経営の受委託につながる重要なポイントである。

そこで、森杜産業(株)(田邊社長)を講師に招き、「低コストで耐久性のある路網作設技術の向上」についての実証、及び研修会を開催した。

日程は、線形検討研修1日、参加型の実証施工研修4日間、振り返り・全体研修1日のカリキュラムにより実施し、総計190名が参加した。

参加型の実証施工研修では、管内のオペレーターが実証作業に加わって、丸太を使った軟弱地盤の改良や、湧水処理、洗い越し等、様々な現場条件に合わせて施工し、各オペレーターの持つ対処法の引出しを増やす内容となった。

振り返り・全体研修に向けては、①講師が作設した道、②研修後にオペレーターが開設した道、③既設作業路に対して「簡易動的コーン貫入試験」を行って、結果を数値化、図化して、オペレーターや研修参加者が路体内部の締固め状況を客観的に判断できるようにした。

この調査は、施業プランナーと県林道担当と一緒にいき、気づいた点を話し合いながら調査の意義や結果を共有することで、道づくりに対する共通の認識を持つことができた。

調査結果を見た、オペレーターの反応は、自らが作った道の内部の様子が図で示されている事に驚きながらも、改善点が分かり、より良い道づくりを目指す良いきっかけとなった。

(5) 活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

研修及びその後の指導等により、緩い勾配の路網を作設することが、施業しやすく、降雨等により浸食されるリスクが少なくなる事が理解されてきた。

一方で、水はけの悪い場所等に対する対応策が定着していないと考えられることから、今後は、必要な個所に簡易な丸太構造物等を作設して、降雨後の作業がしやすくする等、低コストで耐久性のある路網作設技術に対する普及を継続していくことが必要である。

また、管内は地形が急峻であり、路網の作設が困難な地形における木材生産の提案について、地域から求められているため、平成25年度は、急峻な地形に対応した木材生産技術の構築に向け、実証及び研修会等を行ったところである。

今後も、山に合った施業のシステムを選択して、様々な地形条件の山から木材が効率的に生産されるよう活動を継続していく。

2. 研修の受講状況

研修名 平成24年度森林作業道路体調査研修 平成24年5月
(実施主体) 林野庁

研修名 准フォレスター研修 平成25年10月
(実施主体) 林野庁

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

- (1) 日本型フォレスター活動・育成支援事業に係る「民間事業者等に派遣して行う事業活動」により、平成23年度は(株)泉林業(熊本県)において40日間の研修を受け、労働安全・人材育成・直送販売・ハウスメーカーとの連携・造材仕分け技術等について、報告及び普及指導を行った。

また、平成24年度は、森杜産業(株)(滋賀県)にて、森林所有者への利益還元や森づくりのための道づくり、生産方法について8日間の研修を受け、報告・普及指導を行った。

- (2) 県の林業普及シンポジウム2013(平成25年3月)において、「低コストで耐久性のある路網作設技術と山に合った機械・システムの選択」について発表。

- (3) 県の、林業普及指導事業成果発表会(平成26年3月)において、「急峻な地形に対応した木材生産システムの実証」について発表。